
2015年度(平成27年度) 事業報告書

(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

学校法人 聖路加国際大学

1. 法人の概要

【建学の精神】

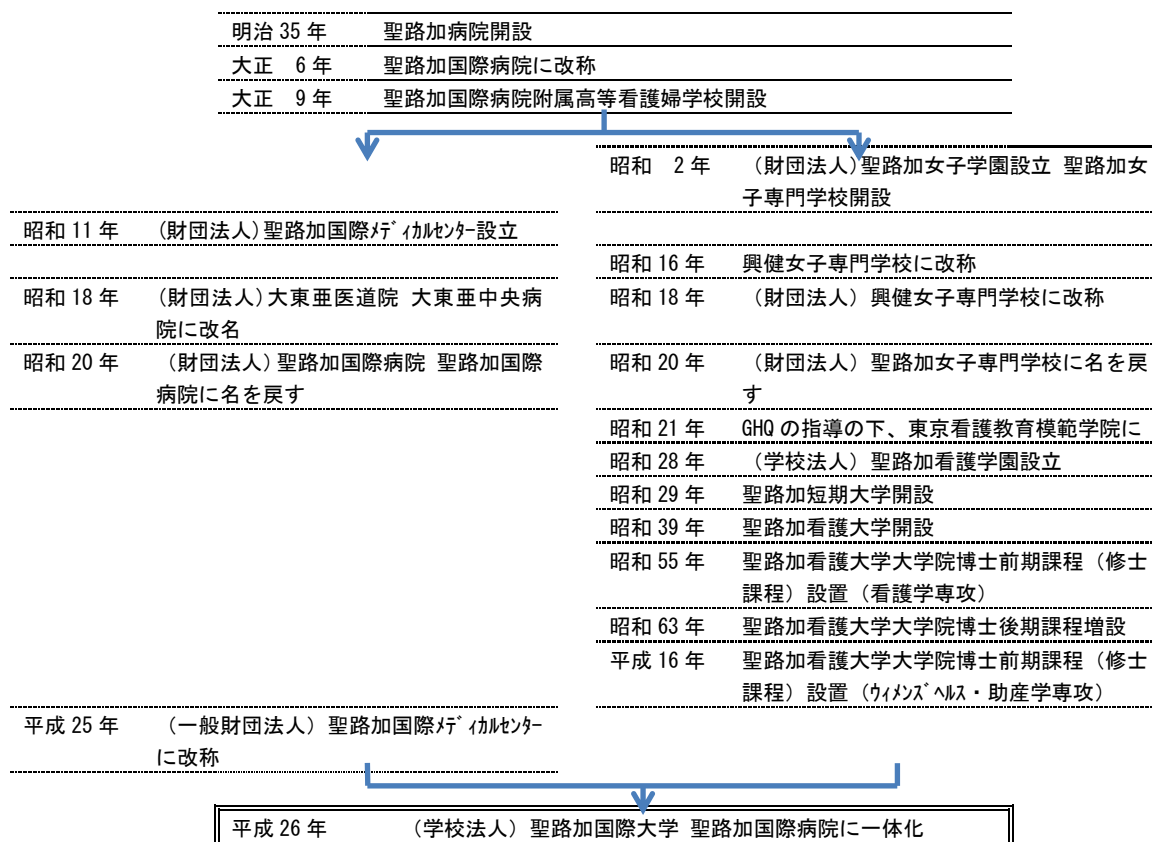
本学は基督教精神を基盤として、看護保健の職域に従事する看護専門指導者の育成を目的とする。即ち治療予防保健指導の各面に必要な看護に関する科学的知識を養い、技能の熟達を図り、人格の涵養につとめ指導者としての能力をたかめ、学術を中心とした看護の実践と応用によって看護および看護教育の進歩発展に寄与し、もって国民の福祉に貢献することを使命とする。

【教育理念】

本学の教育は、学生が各個人に賦与された資質を心身両面にわたって調和よく発展させ、知的能力と判断力を高めるとともに、道徳的、倫理的価値観を形成するよう支援する。自他を問わず人間を愛し、相互に理解し合い、人権・信条を問わず人間社会の種々の領域に積極的に参加し、看護を通して公共の福祉を推進する人材となるよう支援する。

【法人の沿革】

本学は平成 26 年 4 月 1 日付で一般財団法人 聖路加国際医療センター（現 一般財団法人 聖路加財団）より聖路加国際病院等の医療関連事業を譲受け、大学と病院の一体化を実現した。一般財団法人 聖路加財団を含めた沿革は下記のとおりである。



【設置する学校・学部・学科等】

- 看護学部看護学科 〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号
- 大学院看護学研究科(修士課程) 〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号
- 大学院看護学研究科(博士課程) 〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号

【当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況】

本学は看護学部看護学科のみの単科大学であり、平成27年度の入学定員は学部75名、学部2年次編入20名である。

看護学部を基礎学部として看護学研究科が設置されており、入学定員は修士課程30名(看護学専攻15名・ウイメンズヘルス・助産学専攻15名)、博士課程10名となっている。

本学の平成27年度の入学定員等及び現員は次表のとおりである。

表1 平成27年度の入学定員等及び現員

	入学定員	入学者数	収容定員	現員
看護学部 一般	75名	80名	285名	318名
〃 編入	20名	20名	60名	55名
計	95名	100名	345名	373名
看護学研究科 修士(看護学専攻)	15名	31名	30名	60名
〃 (ウイメンズヘルス・助産学専攻)	15名	18名	30名	34名
〃 博士	10名	14名	30名	56名
計	40名	63名	90名	150名
合計	135名	163名	435名	523名

【参考資料：入学定員推移表】

	和 暦	入学定員	備 考
高等看護婦学校	大正 9年	27名	27名は入学生の数
短 大	昭和29年	20名	3年制短期大学設置
大 学	昭和39年	40名	4年制大学設置
〃	昭和51年	50名	40名から50名へ定員増
大学院(修士)	昭和55年	15名	修士課程設置
大 学	昭和62年	60名	50名から60名へ定員増
大学院(博士)	昭和63年	4名	博士課程設置
学士編入	平成11年	20名	学部2年次編入学設置
大学院(修士)	平成17年	30名	ウイメンズヘルス・助産学専攻科(15名)
大学院(博士)	平成18年	10名	4名から10名へ定員増
大学	平成25年	75名	60名から75名へ定員増

【役員及び教職員の概要】

[役員] (平成28年3月31日現在)

理事：17名、監事：2名

理事長	福井 次矢	監事	吉羽 真治
常務理事	熊谷 三樹雄	監事	八田 進二
理事	井部 俊子		
理事	柳橋 礼子		
理事	青木 康子		
理事	竹ノ上 順子		
理事	田代 順子		
理事	内田 卿子		
理事	西原 廉太		
理事	松谷 有希雄		
理事	小島 操子		
理事	渡辺 明良		
理事	細谷 亮太		
理事	糸魚川 順		
理事	植松 誠		
理事	石松 伸一		
理事	菱沼 典子		

[評議員] (平成28年3月31日現在)

評議員：35名

[教職員(常勤)] (平成28年4月1日現在)

総計：2,042名

(内訳)

教員	67名	薬剤師	44名
医師	413名	コメディカル	291名
看護師	904名	事務職員等	266名
看護助手	57名		

2. 事業の概要

【平成27年度の事業の概要】

本学はキリスト教の愛の精神を基盤として、科学の進歩や社会情勢の変化に適用しながら人類へ奉仕する看護専門指導者の育成をミッションとしてきた。そして常に先進的な看護教育・研究・実践・社会貢献を「聖路加国際大学として取り組むべき課題は何か」を念頭に置きながら個別の事業を展開している。

私立大学を取り巻く経営環境としては、18歳人口の減少と経済不況にある一方で看護系大学は依然として増加し続けており、依然として非常に厳しい状況が続いている。

このような経営環境の中で本学は、昨年度において、教育研究体制革新に向け、①学部教育、②大学院教育・研究、③継続教育・社会人教育、④グローバル化の4領域で大学組織・病院組織の有機的な一体運営体制の整備をめざし、具体的には教育・研究・実践（臨床）の融合、聖路加国際病院の質の高い医療・豊富な臨床実践を活用した教育体制の整備、聖路加国際病院の経営資源を活用した大学運営の基盤強化と安定経営の維持・発展のため、一般財団法人聖路加国際メディカルセンター（現一般財団法人 聖路加財団）が営む医療関連事業を譲り受け、大学と病院の一体化を実現した。

当年度は大学と病院の法人一体化から2年目の年となり、法人全体の臨床、教育、研究の更なる質の向上を目的として建設を進めていた大村進・美枝子記念 聖路加臨床学術センターが竣工した。当センターは、国際会議等にも活用可能な「日野原ホール」をはじめ、学部・大学院教育のアクティブ・ラーニング化を推進する多数の講義室、臨床現場を再現した設備を有しており、また、教育や研究・開発を支援する体制を整えたシミュレーションセンター、市民向けの健康情報提供等を行っている「るかなび：聖路加健康ナビスポット」なども設置しており、臨床、教育、研究が一体となった複合施設となっている。本学では、当センターの設備を最大限活用し、医療を取り巻く課題を解決するための高度な専門知識を持った実践家の育成を目指している。

なお、当該施設において2017年4月に公衆衛生大学院の開講を予定しており、設置認可申請手続を進めている。①国内外の教員による「世界水準の教育」、②働きながら学びやすいカリキュラム設定、③附属施設である聖路加国際病院の豊富な臨床データを活用した医療の質の評価、根拠に基づく医療（EBM）の学修等の点で特徴を有する公衆衛生大学院の実現を計画している。

【当期の主な活動内容】

各部門における当期の主な活動内容は下記のとおりである。

(1) 大学部門

1) 看護学部

本学部の使命とする看護専門指導者の育成のため、他大学との差違化を図り、本学のさらなる発展をめざして3つの重点目標を掲げて活動した。

■実習科目の充実および国際化を反映した新しいカリキュラムの導入

■学士3年次編入制度への移行の検討

■実習室のリノベーションによる演習環境の充実

また、下記の点を大学部門における課題として把握しており、次年度以降において対応を進めていく予定である。

■新カリキュラムにおける看護展開論実習のスムーズな運用

■学士3年次編入制度への移行のための諸手続、編入生確保のための広報活動、および制度移行期の定員数増加にともなう実習場・教室・教員の確保

■新アールームの適切な活用

■学生の主体的な学びの推進

2) 大学院看護学研究科

本学の使命とする高度実践者および研究・教育者の育成をめざした教育・研究活動を行った。本年度初めから入学定員増を検討し、修士課程看護学専攻を15名から32名、ウイメンズヘルス・助産学専攻を15名から18名に増員した。また、博士課程看護学専攻は10名から20名に増員し、増員枠の一部についてはDNP (Doctor of Nursing Practice) コースを新設して2017年度入学生から受験生を募集する予定である。

なお、上記を含めた今年度の重点目標と活動の成果は以下の6点であった。

①大学院生定員増と、教員体制・教育環境の検討

入学定員増の認可を受け、修士課程・博士課程ともに、わが国の看護系大学院では入学定員が最大となった。

②大学院入試科目の検討、公衆衛生看護学上級実践コースのPRと受験生増

入試に外部英語検定試験スコア活用を開始した。公衆衛生看護学受験者は目標を上回った。

③CNE 第一期生輩出とFNFPの継続・発展に関する検討

修了生は全員聖路加国際病院に復職し、役割開発が期待される。FNFPは助成期間が今年度で終了し、評価会を実施した。

④留学生への支援体制整備と新たな受け入れ

学則変更を行って、秋季に入学し英語のみの授業で課程を修了できる博士後期課程のプログラムを開講した。

⑤特定行為にかかわる教育センターとの協働

特定行為に関わる教育は、教育センターで卒後教育プログラムとして検討されることとなった。

⑥がんプロフェッショナル養成基盤推進プランに大学全体の人材を活用して参加

事業の小委員会メンバーとして聖路加国際病院スタッフが協働する体制を整備した。

(2) 病院部門

聖路加国際病院は、本学の附属施設となり2年目となった。

JCI 受審は2012年の初認証から3年を経て本年7月、初めての更新を迎えた。今回は聖路加国際病院だけでなく、附属クリニック、産科クリニック、訪問看護ステーション、メディローカスと関連施設全て合せての更新が認められた。

また OECD に当院の Quality Improvement 活動が高く評価されたことを契機とし、IHF（国際病院連盟）より会長賞（Dr. Kwang Tae Kim Grand Award）を受賞した。

診療実績としては、手術件数、救急車受入台数、入院患者実数、入院収益、入院単価、外来収益、外来単価がそれぞれ過去最高の数字となった。

そのほかの主な出来事としては以下のとおりである。

- 4月 ■集中治療科を設置
 - 医療イノベーション部を廃止
 - 周術期センターを廃止
 - ハイブリッド手術室（2室目）稼働
- 5月 ■内視鏡内科を廃止とし、消化器内科に統合
 - 検体検査機器の入替を実施
 - 7階西病棟 無菌室が完成
- 6月 ■共同研究ラボラトリーを新設
 - マグネットホスピタル模擬サーベイ
- 9月 ■IHF（国際病院連盟）会長賞（Dr. Kwang Tae Kim Grand Award）を受賞
 - JCI Tokyo Practicum の会場となる
 - JCEP（卒後臨床研修評価機構）を受審。
 - 東京都の地域連携型認知症疾患医療センター指定を受ける
 - 茨城県常総市の水害支援のため DMAT 出動。水没した医療機関からの入院患者を搬送
- 10月 ■ネパール災害支援として10月31日～11月2日に教職員3名派遣
 - 災害対策訓練（水害想定）を実施
- 11月 ■土曜日予定手術開始
- 1月 ■予防医療推進室を設置
 - 手術支援ロボット da Vinci Xi 更新
- 2月 ■救急車受入台数が年度累計1万台を突破
- 3月 ■第10回聖ルカ・アカデミア開催

(3) 教育センター

教育センターの活動の柱は、大学、病院の教職員の資質向上の推進、医療に携わる外部の専門職との連携とレベルアップ、地域住民に対する開かれた健康教育の展開である。

この目標を実現するために、2015年度は従来の3部門（生涯教育部・FDSD部・シミュレーション教育部）に加え、臨床研修を支援する臨床研修部を新設し、4つの組織が有機的に協働しながら活動を展開した。

教職員教育においては専門教育とともに幅広い教養をもつこと、職種を越えたチームスピリッツを育成することを目標に様々な教育に取り組んだ。一方、日本看護

協会の資格認定事業である認定看護管理者ファーストレベルおよび認定看護師教育課程3コースの展開や各種公開講座を通して外部の看護職の教育を推進した。聖路加健康講座を運営し、地域住民の健康を守り、人間として豊かに生活できるよう支援した。

また今年度の特徴的な活動としては、下記の項目が挙げられる。

- 1) 臨床研修評価機構（JCEP）の臨床研修病院評価の認定審査の受審
- 2) 2016年度開設の臨床学術センターのシミュレーションセンター開設準備
- 3) 2017年の新・専門医制度開始に向けた各診療科プログラムおよび申請書類作成のサポート

その他、超高齢社会のニーズに伴い認定看護師教育課程では認知症看護コースを新設し、一期生を輩出した。2016年度入試の受験者も増え、平成28年度診療報酬改定により、認知症看護コースの需要は高まっている。

こうした各職種への教育、臨床研修の展開など多様な教育の取り組みは聖路加国際大学の教育理念である、自他を問わず人間を愛し、相互に理解しあい、人間社会の種々の領域に参加して公共の福祉を推進する人材の育成と呼応するものである。

一方2025年に向けて厚労省が推進する地域医療支援の一環として、看護師特定行為研修に係る指定研修機関の申請について検討会を設置し討議を重ねたが、大学優先事項や採算面も課題となり、申請時期を延期する結果となった。今後、他施設の開講状況並びに医療政策の動向等を踏まえ適切な申請時期を判断することになる。

(4) 研究センター

大学と病院との組織一体化後2年目として、それぞれの部門の特徴を活かした研究活動・支援・教育を展開した年であった。各部門は事業目標達成の為に精力的に活動を行い、目標は概ね達成された。

- 研究管理部：臨床研究・治験を適正に運用し、研究者を強力に支援して、法人内の臨床研究基盤を確立する活動を行ってきた。
- 研究事務室：公的研究費を中心に研究費の適正な運用及び厳正な管理と、研究支援を行ってきた。特に本年度はコンプライアンス体制の構築と、教育の実施を行った。
- 研究企画管理室：法人における研究の適正管理のための研究倫理審査をはじめ教育・啓蒙活動を行ってきた。
- 臨床疫学センター：医療の質を高めるために必要な臨床研究マインドの醸成をミッションに掲げて、臨床研究および教育を行った。
- PCC 実践開発研究部：People-Centered Care 実践開発研究部は、ナースクリニック等の事業評価項目の明確化や、PCC 概念の組織内への普及を課題として見出した。また、地域連携を強化するため新設した地域連携室においては、中央区との連携事業として中央区民カレッジや委託事業を推進した。さらに、WHOCC の再申請に向けて活動の加速化や、新たな臨床学術センターへの移転準備を行った。

-
- 共同研究ラボラトリ：医療にかかわる学術の創造と公表、および企業等との共同研究の推進、治験検体の受託解析、実験医学の研究支援を行ってきた。臨床学術センターへの移転を計画中である。

(5) 学生支援センター

当センターは、入学から卒業（修了）までの学生の学修・生活支援を総合的に担うことが役割である。発足後2年目を迎えた2015年度は、これまでの学生課・教務課を学生係・教務係とし、入試事務室、健康管理室も加えた「センターとしての機能強化（重点目標①）」をより一層進めるために、全体の統括を行う役割としてマネージャーを配置し、執務場所を同一エリアに統合して学生の窓口は全てセンターに一本化した。スタッフ間の業務もクロスオーバー（有機的統合による業務シェア）させ、絶対的なリソース不足を相互に補いあえる体制を目指した。

一方で、2号館の1階に「学生支援センター2号館」として常時2名のスタッフを配置し、主に大学院生向けの支援業務を行える体制づくりにも果敢にチャレンジした。

年度末に竣工した大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センターに大学本館3階の大教室が移転し、管理管轄するエリアが更に拡大することになった。

年度内に2回実施した学生生活調査（重点目標②）から、学生の要望を拾い、ニーズの吸い上げと改善項目の洗い出しを行い、具体的施策への落とし込みに着手した。質の高い受験者層の確保と入試改革（重点目標③）については、高校訪問数増や土曜日の大学施設見学対応の推進、オープンキャンパスの動員数増、資料請求数増、受験者向け入試webサイトのリニューアルなど広報活動の成果を地道ながらも着実に上げていったことが、一般入試の受験者数増前年度比109.6%の達成につながったと言える。新たな奨学金制度の構築（重点目標④）については、聖路加フェロー奨学金と国際奨学金の運用が新たにスタートした。引き続き、給付型の奨学金制度のあり方についての情報収集と制度設計についての検討を継続する。教務システムの中長期的展望（重点目標⑤）については、2017年度より新たにスタートする公衆衛生大学院（SPH）での活用も視野に入れ、現状の教務統合システム campus-plan と学習支援システム manaba の機能を統合を目指し、且つ、学生・教員の利便性、多言語化やセキュリティへの配慮などを考慮した新しいシステムへの転換を次年度の重要課題として継続検討することとした。

(6) 学術情報センター

当センターの2015年度の活動は下記のとおりである。

1) 重点事業

① 臨床学術センター（CCA）開設後の図書館のあり方に関する検討

本学における教育の質的転換を促すために、学習環境の整備が求められている。それを踏まえ、CCA開設後の大学本館3階をラーニング・コモンズとして改修することを提案した。運営方針、整備計画を策定し、学術情報委員会での審議

を経てキャンパス・マネジメント委員会及び大学運営会議で承認された。

② サービス・業務の統合

図書館カウンター・事務室を一本化し、蔵書の統合を進めた。蔵書は、図書について、書架、目録データともに統合を完了した。また外国雑誌は配架場所を統合することができた。さらに統一した蔵書管理の方針として「聖路加国際大学学術情報センター図書館における学術的な出版情報の収集・管理方針」を策定した。

③ 学習支援機能の強化

図書館2階の一部を改修し マルチメディアエリア を整備した（私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金）。また英語科・国際部とともに アカデミック・ライティング・デスク を開始し、質問紙調査を実施した。

④ 図書館評価

国際評価指標 LibQUAL+® を実施した。人的な蔵書あるいは提供している資料の範囲等に課題があることが明らかになった。

⑤ 研究業績システムの拡張

対象を病院職員に拡大するとともにクローリングなどの機能拡張に取り組んだ。

⑥ 文書移管受け入れ体制の整備

病院旧館2階に アーカイブズ保管庫を整備し、旧大学・病院の資料を集約し、合わせて目録も統合した。これに伴い、トイスラーハウス内に事務室を移転した。

2) 学内連携事業

市民のヘルスリテラシーの向上と People-Centered Care の実現を促すため、関連部署等と連携して、さわやか学習センター、るかなびの活動を行った。委員会の事務局として、学術情報委員会および大学史編纂小委員会、紀要委員会、看護ネット運営会議を運営した。

3) 学術情報センター運営会議

学術情報センターのスタッフと毎月運営会議を開催し、業務報告を受けるとともに課題を把握した。

4) 社会的活動

- ・ 研修等講師
- ・ 図書館等団体活動
- ・ 大学史編纂・資料室関連活動

(7) 国際部（現 国際連携センター）

当部の当年度の主な活動内容は下記のとおりである。

1) 留学プログラムの運営

- ① 学生海外派遣（77名）／受入（16名）プログラム運営、奨学金設置運用
 - 協定校とのプログラム内容協議
 - 説明会、募集・選考、オリエンテーション実施

-
- 奨学金支給金額の決定、支払手続き
 - 留学生のアテンド、生活支援
 - ②学生新派遣プログラム実施検討
 - 米国・デューク大学看護学部
 - ③正規外国人留学生獲得機会拡大
 - 大学院博士課程における留学生受入れコース検討
 - 秋入学の検討
 - ④海外医学生病院研修（IMSE）プログラム窓口業務
 - 新規問い合わせ対応
 - Global Health Learning Opportunities ネットワークへの加入
 - ⑤トルコ人看護師受入（12/29-6/29）
 - VISA 取得、生活支援
 - 研修プログラム調整
 - ⑥リトアニア人医師研修受入（11/2-6）
 - リトアニア大使館との受入調整
 - ⑦職員海外留学・研修支援プログラム
 - 2016 年度派遣者選抜
 - 2) アジア・アフリカ学術交流業務
 - タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学
 - インドネシア・国立イスラム大学
 - 聖路加× JICA 大学院連携事業実施
 - 3) 語学教育環境の充実
 - 英語 E ラーニング ALC Net Academy 2 の導入
 - 4) 学生・教職員の国際通用性の強化
 - 海外教育機関（コロラド大学／イリノイ大学／オレゴンヘルス & サイエンス大学／マックマスター大学／メイヨークリニック）の教員および学内教職員を講師とした 9 セミナー開催、参加者計 370 名
 - 5) 聖公会大学連合（CUAC）連携強化
 - アジア・トリニティ大学サービスラーニング学生派遣
 - 6) アメリカンカウンシル事務局業務
 - クリスリングウォルト先生招聘（4/2-5）
 - アメリカンカウンシルミーティング（9/20）開催支援
 - コロンビア大学医学生受入調整、奨学金支給手続き
 - ベスト 2nd イヤーレジデント海外派遣、奨学金支給手続き
 - 7) MD アンダーソンがんセンター姉妹提携事務局業務
 - MD アンダーソンがんセンター、聖路加国際大学、慶應義塾大学共同カンファレンス開催準備
 - 8) 委員会事務局業務
 - 国際化推進委員会
 - WHOPHC コラボレーティングセンター
 - 9) 海外からの見学受入業務
-

-
- 7件、35名対応、大学／病院案内、オリエンテーション実施
 - 10) 危機管理体制の強化
 - Eラーニング作成
 - 海外旅行保険包括契約（学生）締結
 - 11) その他
 - 災害支援検討委員会ネパール視察参加（10/31-11/3）

（8）情報システムセンター

2015年度の主な活動内容は、情報セキュリティ対策の強化、大学と病院の双方向通信の基盤整備、2016年5月に情報システムセンターが移転する臨床学術センターのフロア設計並びに移転計画を行った。

1) 日常業務にかかわる活動

- ①情報室は、主に診療情報にかかわる監査業務・登録業務・アナログ文書の処理・二次利用・各種委員会活動を行った。
- ②システム室は、主に情報システムにかかわるヘルプデスク、情報システムの導入・構築・運用・廃棄にかかわる活動、情報セキュリティにかかわる活動、各種委員会活動を行った。

2) 情報セキュリティにかかわる活動

①情報セキュリティ対策

- A) 法人の情報セキュリティ対策を実施するための基準として基本方針、対策標準、手順書があり、本年度は基本方針の策定が完了し、対策標準の宅性を実施した。
- B) 情報漏洩対策として管理ソフトウェアを展開し情報収集を開始した。

3) 情報統合にかかわる活動

①規程・規約の統廃合

昨年度の規程・規約の統廃合に続き、情報システム運用管理規程の策定を実施した。

②ハードウェア、ソフトウェアの統合

新規導入案件を除き、ハードウェア構成に大きな変更は行わなかった。

③新規情報システム導入

④次期情報サービスの構想の策定

2018年1月に実施する全面的な情報システムの刷新を実施するため、基本構想の策定を実施した。

⑤プラン策定・実行

次期情報システム刷新の次期が1年前倒しになることが決定したため、これに伴う中長期プランの再作成を実施した。

4) 臨床学術センターのフロア設計

- ①2016年5月の情報システムセンター移転後の業務継続性や運用変更について検討を実施した。

(9) 法人部門

法人部門の各部署の活動は以下のとおりである。

1) 法人事務局

法人全体に係る事業の管理、広報業務、秘書業務を担う部署であり、2015年度は主に臨床学術センター建設や公衆衛生大学院設置関連、キャンパスマネジメント委員会、将来構想検討委員会の活動をおこなった。

2) 内部統制・監査室

昨年度において課題とした内部監査業務の強化について、監査計画に則り実地監査を9件（外部監査人への同行や他部署と共同のものを含む）実施し、活動を強化できた1年であった。また、上記以外の恒常的な活動として、内部統制業務、コンプライアンス強化業務等に従事した。

3) 募金室

寄附金受入一元化の業務フローの定着のため、新パンフレットの各所配置等を行った。また、法人内広報活動や聖路加サポーターズ募金の奨励を積極的に行った。

4) キリスト教センター

本学の基盤となるキリスト教の愛の精神や「全人的医療」を具現化する役割を担い、学生・職員・地域に対する教育活動とともに、医療現場におけるスピリチュアルケア介入を行った。また、種々の礼拝と祈りの機会や音楽プログラム等を主催した。

(10) 事務局

総務課・人事課・財務経理課・物品管理課・施設課の5つの部署で構成されている事務局は、法人一体化から2年目を迎え、今年度も通常業務の効率化を図ると共に、大学・病院業務の更なる一体化に努めた。

各課の課長・マネジャーが集まる事務局会議を今年度も引き続き開催した。事務局会議では、横の連携を図ることを主たる目的とし、各課の毎月の業務内容を共有しそれぞれの課題を出し合い、事務局全体の問題として意見交換を行い解決に取り組んだ。7月に行われたJCIサーベイにおいても、事務局全体で対応に取り組んだ。

以下、今年度の各課の課題と主な取り組みである。

1) 総務課

総務・庶務業務における円滑な連携と共有

- ・各種届出、調査、監査への対応
- ・補助金申請
- ・総務管轄の施設環境整備
- ・トラブル対応

2) 人事課

給与・年金制度の整備及び人事制度の改革

- ・新人事制度検討
-

-
- ・給与、退職金、年金制度の見直し
 - ・寮管理の見直し及び豊洲新看護宿舎移転
 - ・サテライトオフィスの活用

3) 財務経理課

学校法人会計基準改正に対応する会計システムの構築

- ・決算業務フローの確立、効率化
- ・会計システム導入の検討

4) 物品管理課

購買機能、管財管理の改善及び設備導入と見直し

- ・医療機器、器材への電子タグ導入による所在、稼働、在庫管理
- ・洗浄、滅菌管理システム導入による器材管理と使用器材の安全管理
- ・院内洗濯による安定供給体制の構築

5) 施設課

施設課整備及び体制の見直し

- ・コンサルタントを導入し現状調査及び把握
- ・ハウスキーピング体制の整備

3. 財務の概要

(1)平成27年度の財務状況

①概要

当年度の我が国経済は、政府による経済対策や日銀の金融緩和策により、緩やかな回復基調で推移した。しかし、看護系学部の増加により学生獲得競争は年々激化しており、本学を取り巻く経営環境は一段と厳しさを増している。また、医療業界においても医薬品や医療機器の高額化によるコスト増が利益を圧迫しており、加えて将来において消費税増税も見込まれるなど、予断を許さない状況が続いている。

このような厳しい経営環境の下、当法人は教育・医療の質の向上と合わせて、収支改善を目指して大学・病院の収益最大化やコスト削減に取り組んだ。

②当年度の財政状態・経営成績

当法人は、2014年度に教育・研究・実践（臨床）の融合等を目指して大学・病院の組織統合（法人一体化）を行い、一般財団法人 聖路加財団の医療関連資産・負債を承継した結果、事業規模・資産規模は大きく増加し、経営基盤は非常に強固なものとなった。

2015年度は、上記に加えて公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所の解散に伴い同法人の事業を承継したことや、聖路加財団から大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター関連の資産を譲り受けたことにより総資産は更に増加し、2015年度の総資産は85,195百万円（前年度比：+14,022百万円）となった。また収支についても、上記の事業承継や資産譲受を寄付収入として計上したこと等により、事業活動収支計算書における基本金組入前当年度収支差額は13,486百万円と大幅なプラスとなった。しかし、臨床学術センター新設や法人一体化による事業規模拡大に伴い15,903百万円の基本金組入を計上した結果、当年度収支差額は△2,416百万円となった。

なお、上記の事業承継や資産譲受に伴い計上した収益の影響を除外した基本金組入前当年度収支差額は△800百万円となった。この主な要因は、病院部門において、収益が増加した一方で医薬品・診療材料等の材料費や人員増加に伴う人件費の増加が収益増の影響を上回ったことによるものである。

4. 平成27年度の決算説明（事業活動収支計算書）

I. 教育活動収支

(1) 教育活動収入

① 学生生徒等納付金

入学辞退者が多く（学部29名、学編2名、修士1名、計32名、入学金1,280万円）、学部生が8名、大学院生が12名増員となったため、収入が増加した。

内訳は下表の通りである。

	人数	金額	備考
入 学 金	190	76,000,000 円	学部 112 人, 学士編入 20 人, 修士 49 人, 博士 9 名 (辞退 32 人含む)
授 業 料	521	582,930,000 円	
実 験 実 習 料	373	92,812,500 円	学部 : 年 250,000 円
施 設 維 持 料	521	87,237,500 円	学部 : 年 180,000 円、修士・博士 : 年 150,000 円、長期在学 : 年 100,000 円
養 護 実 習 料	22	2,200,000 円	@100,000 円 × 22 名
保 健 師 実 習 料	63	4,158,000 円	@ 66,000 円 × 63 名
研 究 生 他	23	2,590,000 円	研究生 500,000 × 5 名他
計		847,928,000 円	

② 手数料

入学検定料については受験者数及び収入額を連年対比した。

	大 学 院		学 部			計	金 額
	博士	修士	学編	一般	推薦		
2009 年度	25	65 (25)	62	450	20	622 名	2,177 万円
2010 年度	12	69 (32)	73	432	56	642 名	2,257 万円
2011 年度	18	57 (24)	77	467	34	653 名	2,285 万円
2012 年度	13	55 (27)	50	428	42	588 名	2,058 万円
2013 年度	19	55 (27)	39	388	38	539 名	2,154 万円
2014 年度	20	58 (23)	49	452	46	625 名	2,500 万円
2015 年度	19	83 (35)	44	282	35	463 名	1,852 万円
2016 年度	19	65 (22)	40	309	37	470 名	1,880 万円

※上表には証明手数料 322,400 円、再試験手数料 176,000 円、研究審査料 50,000 円
学位審査手数料 500,000 円は含まない。

※()内はウイメンズヘルス・助産学専攻の学生数

③寄付金

現物寄附 1,491 百万円、特別寄付 565 百万円、一般寄付 1,197 百万円を計上した結果、合計 3,253 百万円の収入となった。

公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所の解散に伴う同法人の事業承継や一般財団法人 聖路加財団からの大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター関連資産の無償譲受について、施設設備以外の承継額（合計 2,686 百万円）を現物寄附および一般寄付として計上している。

④経常費等補助金

国庫補助金 348 百万円、地方公共団体補助金 120 百万円、その他補助金 12 百万円を計上し、合計 480 百万円の収入となった。大学事業・病院事業各々の主な内容は下記のとおりである。

i) 大学事業

大学事業においては合計 301 百万円の補助金を受け入れており、主なものは下記のとおりである。

イ) 日本私立学校振興・共済事業団からの補助金

今年度は、昨年度に引き続き、「私立大学等改革総合支援事業」の 2 タイプの取組が選定されたこともあり、一般補助、特別補助で 279 百万円の収入となった。前年対比 3 百万円の減額ではあったが、依然高水準を保っている。

ロ) 文部科学省からの直接補助金

・ 大学改革推進等補助金	
看護系大学教員養成機能強化事業（3 年目）	13 百万円
がんプロフェッショナル養成プラン（4 年目）	4 百万円
・ 私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金（当年度）	5 百万円

ii) 病院事業

病院事業においては合計 178 百万円の補助金を受け入れており、主なものは下記のとおりである。

・ 救急救命センター施設整備等補助金（運営費）	103 百万円
・ 臨床研修費等補助金	24 百万円
・ 周産期母子医療センター運営費補助金	24 百万円

⑤付随事業収入

認定看護師教育課程等の補助活動収入 92 百万円、共同研究等の受託研究（委託形態の厚生労働省科研受託収入を含む）493 百万円、治験収入 200 百万円等を計上し、802 百万円の収入となった。

⑥医療収入

医療収入は 34,302 百万円となった。内訳は下記のとおりである。

項 目	金 額
入院収益(室料差額を除く)	16,421 百万円
室 料 差 額 収 益	3,284
外 来 収 益	10,344
予防医療センター収益	3,234
メディローカス収益	626
産科クリニック収益	246
訪問看護ステーション収益	137
その他の医業収益	209
保険等査定減	△ 199
医療収入合計	34,302

⑦雑収入

私立大学退職金財団交付金 42 百万円、大学・病院施設の利用料収入 421 百万円、厚生労働科学研究・共同研究等に係る間接経費収入 83 百万円、他法人からの業務受託収入 65 百万円等を計上し、665 百万円の収入となった。

上記の結果、当年度の教育活動収入は 40,369 百万円となった。

(2) 教育活動支出

① 人件費

教員人件費 635 百万円(本務教員 613 百万円、兼務教員 21 百万円)、職員人件費 16,761 百万円(本務職員 14,731 百万円、兼務職員 2,030 百万円)等を計上し、人件費合計は 18,173 百万円となった。

② 教育研究経費

病院との一体化による組織の有機的な一体運営体制により施設の共同使用が促進、効率化された等の要因により、全体金額が微減し、当期計上額は 354 百万円となっている。

主な内訳は、実験実習費 14 百万円、消耗品費 21 百万円、修繕費 5 百万円、委託管理費 77 百万円、奨学費 29 百万円、減価償却費 89 百万円等である。奨学費は、前年度比 16 百万円の増額であり、学生国際奨学金が拡大されたことによるものである。

③ 医療経費

当期の医療経費合計は 17,276 百万円であり、主な内訳は下記のとおりである。

項 目	金 額
材 料 費	8,782 百万円
委 託 費	1,872
減 価 償 却 費	2,353
設 備 関 係 費	1,883
研 修 研 究 費	43
水 光 熱 費	966
診 療 費 免 除	392
消 耗 品 費 ・ 消 耗 備 品 費	342
租 税 公 課	260
そ の 他 の 経 費	381
医 療 経 費 合 計	17,276

材料費は高額医薬品の増加や手術件数増加に伴い増加している(前年度比: +861 百万円)。また、減価償却費は新規資産取得・リース契約締結に伴い増加している(前年度比 329 百万円)。

④ 管理経費

当期の管理経費合計は 2,599 百万円となっている。主な内訳は、減価償却費 473 百万円、消耗品費 364 百万円、賃借料 315 百万円、機器保守料 276 百万円等である。

⑤ 徴収不能額等

主として病院部門における医療未収入金の回収不能額および回収不能に備えた引当金繰入額を計上している。

上記の結果、当年度の教育活動支出は 38,470 百万円となり、教育活動収入から教育活動支出を控除した教育活動収支差額は 1,899 百万円となった。

Ⅱ. 教育活動外収支

(1) 教育活動外収入

① 受取利息・配当金

低リスクの金融商品で運用をしており、15百万円の収入となった。

(2) 教育活動外支出

① 借入金等利息

借入金等利息 3百万円は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入に係る支払利息である。

② その他の教育活動外支出

公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所の解散に伴い同法人の事業を承継したため、同法人において計画遂行中であった臨床疫学等に関する研究助成を当法人にて実行し、助成金支出額 18百万円を寄付金として計上している。さらに、その他の雑損失 6百万円を計上し、その他の教育活動外支出合計は 24百万円となった。

上記の結果、当年度の教育活動外収入から教育活動外支出を控除した教育活動外収支は△11百万円となり、経常収支差額は 1,888百万円となった。

Ⅲ. 特別収支

(1) 特別収入

①有形・無形固定資産売却差額

病院部門における医療機器の下取価額と帳簿価額の差額を計上している。

②その他の特別収入

公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所および一般財団法人 聖路加財団から承継した大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センターの土地・建物・設備承継額（合計 11,604 百万円）を現物寄附として計上している。

また、施設設備関係の補助金として、104 百万円（救急救命センター施設整備等補助金（設備整備）61 百万円 等）を計上した。

さらに、過年度修正額 5 百万円を計上し、その他特別収入計上額は合計 11,713 百万円となった。

(2) 特別支出

①資産処分差額

主として病院部門における医療機器更新等に伴う既存資産の除却損および除却費用を有形・無形固定資産処分差額として計上している。

②その他の教育活動外支出

公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所の資産承継の際の、計上基準未満の費用処理額等を計上している。

上記の結果、特別収入から特別支出を控除した特別収支差額は 11,599 百万円となった。

上記「Ⅰ. 教育活動収支」、「Ⅱ. 教育活動外収支」、および「Ⅲ. 特別収支」を合計し、基本金組入前当年度収支差額は 13,487 百万円となった。

IV. 基本金組入額

当年度の基本金組入高 15,903 百万円の内容は下記のとおりである。

①第1号基本金

公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所および一般財団法人 聖路加財団から承継した大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センターの土地・建物・設備に加え、当年度の支払資金により支出した教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書等の合計額 13,816 百万円 (A) と借入金・未払金の返済分 1,145 百万円 (B) の合計額 14,961 百万円 (C) から、当期除却額 292 百万円 (D) と当期の未払額 1,399 百万円 (E) を控除した金額 13,269 百万円が当期の基本金組入額となっている。

項 目	金 額	
【当期取得】		
土 地	4,500	百万円
建 物	7,179	
構 築 物	73	
教育研究用機器備品	46	
管理用機器備品	1,838	
図 書	8	
ソ フ ト ウ ェ ア	173	
計	13,816	(A)
【借入金・未払金返済】		
借 入 金 返 済	33	
未 払 金 支 払 高	1,111	
計	1,145	(B)
小 計	14,961	(C) = (A) + (B)
当 期 除 却	△ 292	(D)
未組入高 (未払額)	△ 1,399	(E)
当 期 組 入 高	13,269	(C) + (D) + (E)

②第4号基本金

本年度に 2,634 百万円第4号基本金の繰入を行った。

2014 年度に大学・病院の組織統合（法人一体化）を実現し事業規模が拡大したことに伴い、恒常的に保持すべき資金として設定されている第4号基本金の計算のベースとなる事業活動支出が増加したため、本年度に繰入額が大幅に増加している。

V. 当年度消費収支差額

基本金組入前当年度収支差額 13,487 百万円から基本金組入額 15,903 百万円を控除した当年度収支差額は△2,416 百万円となった。

5. 財務書類

- ①資金収支計算書
- ②事業活動収支計算書
- ③貸借対照表
- ④財産目録

6. 監事の監査報告書